

Oita Yufumi

**VOL.17**

Hospital

発行／令和2年4月

# 大分ゆふみ

# 病院たより

 大分ゆふみ病院



「困難な時にできることとは」

院長 一万田 正彦  
いちまた まさひこ



春は新しい生活のスタートの時期です。新たな出会いやチャレンジに、胸躍らせている人がたくさんいます。ところが令和2年の春は新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活が一変しました。日常生活はいろいろと制約を受け、感染の不安を抱えながらの日々を過ごすざるをえなくなりました。そのような状況においても、多くの人々は前向きに、今できることを頑張っています。

この不自由な環境は、がんと闘っている患者さんと共通する部分があります。患者さんにとって、がん告知を受けたときからその闘いは始まります。これからどうなっていくのだろうかという不安、これまで当たり前に行えていたことができなくなる憤りや疎外感、そして治療が行えなくなったときの絶望感を感じられると思います。

大分ゆふみ病院には、がんの治療が難しくなり、標準的な緩和治療・ケアを行っているにもかかわらず、苦痛症状や辛さが残り、症状の改善が難しい状況となって入院される方が多くいらっしゃいます。患者さんはいろいろな苦悩を抱えています。私たちは、苦痛症状をできる限り和らげ、こころの重荷を少しでも軽くできるように関わり、ささやかながらもこれまで諦めていた日常を取り戻せるようにサポートしています。困難な時であるからこそ、周りの人の支えが必要になります。ホスピスでのケアを行っていく中で、患者さんやご家族が笑顔を見せてくれた時は、私たちにとっても大きな喜びとなります。

不安定な世の中で、先行きの不安があっても、それぞれの人が思いやる気持ちを持って、困難な状況を乗り越えられる社会になることを願っています。時代が変わり、医療も進歩し、世の中の状況が変化していく中で、専門的緩和ケアの提供施設である大分ゆふみ病院は、がん患者とその家族の支えとなるべく日々精進を重ねております。そして患者さん・ご家族にとって「ここに来て良かった」と言っていただけのような病院を目指しています。

大分ゆふみ病院が、がんで苦しむ、患者さん・ご家族の支えの一助となれば幸いです。

OITA YUFUMI HOSPITAL



外観



秋の裏庭



オカリナコンサート

「ゆふみ病院にお願いします」

安東 裕美《患者様のご家族》



父の治療が難しく、容体が悪化していく中、心穏やかに過ごせる場所の候補に真っ先浮かんだのは、こちらでした。私は以前この病院にお世話になっていたおじとの最後の面会に父と二人で訪れたときのこと、丁寧に手入れされた庭の美しさに話は尽きず、いい場所だねと言葉を交わした思い出の場所だったのです。

幸いにも転院することができ、父の容体も落ち着いた頃、職場から長期休暇を頂き、一緒に寝泊まりをしました。就職をして家を出て以来、30年ぶりの父との時間でした。部屋には思い出の写真を飾り、テラスには趣味の盆栽を置かせていただきました。庭には愛らしい小鳥が訪れ、父にメジロなどの小鳥の名前を何度も教えてもらいました。天気のいい日には散歩をし、庭木の枝ぶりや、剪定の話を楽しそうにしてくれました。綺麗な月夜にはカメラを持ち、孫と笑顔で撮影をしていました。

また院内で開催される行事は季節の訪れと日々の喜びを気づかせてくれました。ひな祭りには桃の木の下で、家族で琴の音を聴きました。桜が咲く季節にはお茶を頂きながら、庭に咲き誇る桜を楽しみました。午後のくつろぎの時間には部屋の扉を開け、美味しいコーヒーをお供に、ピアノやバイオリン、ギターやライヤー、院長先生のオカリナなどの優しい音色に心を包まれていました。その穏やかな音の中ですやすやと気持ちよく眠りにつく父の顔は忘れることができません。

体が日々弱っていく中でも心穏やかで、最後まで周りの人を笑顔にしようとしてくれる思いやりのある優しい父でした。元気な姿を見せようと気丈に振舞っていた父でしたが、ある日ぽつりと零しました。

「もう頑張れない。頑張らなくてもいいかな。」

これを聞いて私は胸が詰まる思いでした。これまでみんなのために頑張りを続けてくれた父でしたので、自分の運命を受け入れることはきっと並大抵のことではなかったと思います。けれども、ようやく辛さを打ち明けてくれました。考え、悩み、戦いぬいた末の言葉だったのだと思います。こう問われたときの答えはこちらに来た時から決まっていた。

「頑張らなくていいよ。ゆっくりしようよ。」

この会話を最後に父と別れることとなりました。

父に残された大切な時間、その時間を父と私たち家族が過ごすしやすいように細々としたことにも対応していただいたスタッフの方々の優しさには感謝してもしきれません。お陰様で家族みんなで素晴らしいひと時を過ごすことができました。本当にありがとうございます。

父は今もきっと美しい自然と優しい音色に囲まれて過ごしていると思います。

## 春

中庭には、たくさんの花が咲き誇り、そこに小鳥たちもやって来ます。家族と一緒に優しい時間を過ごします。



娘さんの誕生日をみんなでお祝いしました！  
素敵な笑顔にほっこり。

見て！ 今日、卒業式だったよー。

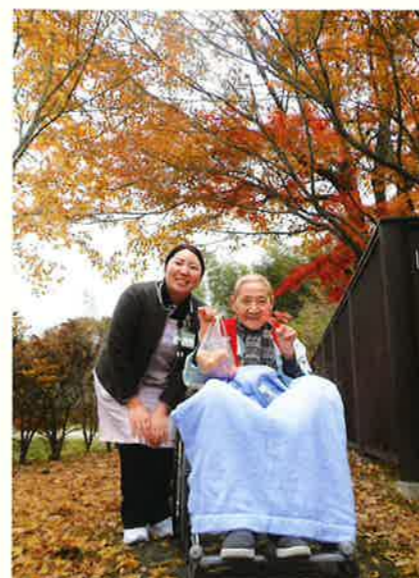


母娘と一緒にひな祭り

## Spring

## 秋

景色が赤く色づく秋、肌に心地いい風を感じながら中庭の散歩や花摘みなどに気持ちも安らぐひととき。



真っ赤な紅葉の中をお散歩しました！

## Autumn

お月見の会でかわいいうさぎ発見！



久しぶりのお散歩で  
かわいいお花みつけました！！

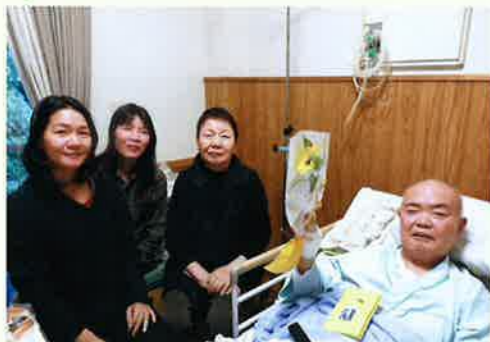


## 夏

各部屋の前のウッドデッキから眺める緑豊かな庭は、心とむ時間。揺れる木々の緑が心に寄り添います。



## Summer



《父の日》家族みんなお父さんのことが大好き



お孫さんのピアノ演奏♪  
みんなが癒されて笑顔になりました。



まだまだ元気になりそうです。

## 冬

空気が澄み渡る清々しい冬、ロビーの暖炉に火がくべられ、笑顔が広がり暖かい気持ちに包まれます。



## Winter



節分のイベント。お面をのせて控えめな  
はにかむ笑顔が素敵です。



サンタさん、トナカイと一緒にメリークリスマス♪

お散歩中にかわいいお花を  
見つけてニッコリ



## ボランティアの活動

大分ゆふみ病院では、現在約60名のボランティアが医師や看護師など医療職員と共にホスピススタッフの一員として活動しています。ホスピスボランティアは、病院の中に「社会の風、匂い、空気を吹き込む」という役割を担い、患者さんやご家族に寄り添いながら、大切な日々を心穏やかに過ごして頂けるように心がけています。月曜日から土曜日まで、それぞれの個性と特技を活かしながら、ラウンジで喫茶やハンドマッサージの提供、四季折々の花を植えた園芸活動、折り紙、患者さんやご家族と一緒にパッチワークキルトの作成、ピアノやギターの演奏、季節の行事への参加など、入院生活がより豊かに充実したものになるように努めています。また、毎年秋に行われる、リレー・フォー・ライフ（RFL）大分大会には、平成20年の第1回大会から参加しており、毎回多くのボランティアスタッフが病院職員と共にたすきを繋げています。

《現在、新型コロナウイルス感染防止のためにボランティア活動は休止中です》



喫茶の時間



折り紙



園芸活動

## ホスピスセミナー（市民公開講座）

大分ゆふみ病院は、ホスピス（緩和ケア）のことを理解して頂くための啓蒙活動として、毎年1回、医療・介護従事者を対象とした「ゆふみホスピスセミナー」と、毎年2回、一般の方を対象とした「市民公開講座」を開催しています。ホスピスの現状や当院が行っている医療・看護の内容など、各専門職がその立場から講演や研修を行っています。



市民公開講座の様子

## 開院20周年記念事業

大分ゆふみ病院は、2001年11月に独立型ホスピスとして開院し、来年2021年に開院20周年を迎えます。開院20周年記念事業として、2021年10月30日に記念講演会を開催します。場所や内容など詳細が決まりましたらお知らせ致します。

## ■研修・施設見学受け入れ状況（2019.4.1～2020.3.31）

### 研修

卒後臨床研修医 6名（大分大学医学部 附属病院、大分県立病院）  
 看護師研修 3名（大分大学 大学院）  
 看護学生研修 82名（大分大学医学部 看護学科）  
 薬学生研修 6名（神戸学院大学、九州保健福祉大学）

### 施設見学 36名

看護師10名、保健師1名、社会福祉士4名、介護支援専門員19名、その他2名

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、新別府病院、豊後大野市民病院、大分市内 地域包括支援センター、大分市内 居宅介護支援事業所 ほか

※入院患者さま、ご家族には、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力をお願い致します。

## ■ホスピス診療記録（2019.4.1～2020.3.31）

### ■入院患者数

195名（男性93名、女性102名）

### ■平均年齢

74歳

### ■住所分布

大分市146名、大分市外49名

（大分市外：由布市9名、豊後大野市7名、別府市6名ほか 県内市町22名、県外5名）

### ■紹介元病院

大分大学医学部 附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分医療センター、九州大学病院別府病院、やまおか在宅クリニック、うえお乳癌外科、大分三愛メディカルセンター、井野辺病院、大分岡病院、別府医療センター、吉川医院、九州がんセンター、大分健生病院、新別府病院、大分共立病院、河野脳神経外科病院、明和記念病院、大分循環器病院、大分記念病院、津久見中央病院、長崎医療センター、熊本医療センター ほか

## 入院までの流れ

### ①入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院相談外来や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

### ②入院相談外来（医師による診察面談）

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。  
 ※紹介状とX線フィルムなどを持参していただけます。

### ③入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー（相談員）によって行われます。

### ④会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

### ⑤入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行ないます。

## 病院理念

大分ゆふみ病院は  
『今を生きる』患者と家族を支えます。

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

## ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、  
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

### ■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象とします。
- 患者と家族が入院を希望していることが原則です。
- 入院予約時に「病名・病状」について理解していることが原則です。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

### ■がん疼痛緩和外来 [要予約]

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも直接外来受診や電話相談に応じます。専門の緩和治療医が対応いたします。お気軽にご連絡ください。※要予約

### ■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、必要に応じて、訪問診療医、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

### ■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

### ■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://oitayufumi.com)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎097-548-7272

電話受付時間 / 月～金曜日 AM9:30～PM4:30(祝日は除く)

#### 交通のご案内

- バスをご利用の場合  
大分駅より大分交通<机張原>行き、  
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合  
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分